

学校経営の重点		分掌	各部・学年の重点目標	実践項目実践項目（具体的な活動・取組項目）	評価1 分掌内 評価	評価2 他の分掌に 対する評価	関係者 評価
番号	項目						
1	生徒の「学 の究め」への 支援の充実	1年	高校生としての学習方法を確立させ、基礎学力を向上させる。	小テスト・予習・復習により、家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図る。	3.83	3.72	3.75
				ディベートを行うことで、情報収集力、論理的思考力、表現・発信力などの基礎を身につけさせる。	3.50	3.50	
				基礎学力の向上のため、小テスト、週末課題を実施する。	4.00	3.60	
		2年	進路への意識を高め、基礎学力のさらなる向上を図る。	早朝や放課後、長期休業中など、継続的な補習計画を立て、確実な学力をつけさせる。	3.88	3.50	4.00
				課題研究を行い、情報収集力、論理的思考力、表現・発信力などを身につけさせる。	3.63	3.33	
				早朝や放課後、長期休業中など、継続的な補習計画を立て進路実現に必要な学力をつけさせる。	3.57	3.84	
		3年	進路目標達成のために主体的に学習に励み、各自の進路を実現させる。	「朝活」などの活用を促し、主体的に学習に取り組む機会を提供する。	3.57	3.45	3.75
				図書館の利用促進に努め、環境整備を行い、生徒や教員にとって利用しやすくする。	3.25	3.41	
				図書館の蔵書数を増やすとともに適切な廃棄も行い、魅力ある図書館の環境整備に努める。	3.50	3.38	
		総務部	授業のさらなる改善に取り組むことで、「学の究め」への支援の充実をめざす。	研究授業や授業公開等により教職員がお互いに切磋琢磨できる環境をつくる。	3.50	3.63	3.25
				時間割変更により自習を極力減らすなど、授業時数をできるかぎり確保する。	3.75	3.46	
				授業へのICTの活用を積極的に推進していく。	3.25	3.29	
教務部	校務処理の環境整備をはかる。	定期考査・期末成績処理などが円滑に実施できるように支援する。	3.50	3.54	3.00		
		コンピュータによる校務処理を効率的に行えるよう推進する。	3.50	3.46			
		日々の出欠管理等、校務支援システムの活用を円滑に行う。	3.50	3.49			
進路指導部	進路実現に向けた情報の提供。	進路指導室の資料を充実させるほか、進路講演会の実施や進路関連の情報誌の配布と活用を促進する。	3.67	3.53	3.50		
		新しい入試制度や方式、大学入試の実施状況や本校の受験結果分析を踏まえ、生徒・教員に有益な情報を発信していく。	3.67	3.25			
		生徒が参加・体験できるキャリア研修、ボランティア活動などを企画・実施する。	4.00	3.42			
2	高校生としての確かな生活習慣と豊かな心の育成 自主活動の充実・向上	1年	高校生としての基本的な生活習慣を確立させる。 授業、部活動、学校行事などに積極的に取り組ませる。	校則・マナーの遵守、時間厳守、挨拶、身だしなみ等、高校生らしい言動を心がけさせる。	3.17	3.50	3.50
				学年通信の発行、日々の欠席遅刻早退の確認、三者面談等、保護者との連絡を密にする。	3.67	3.66	
				文化祭や球技大会などの学校行事・学年行事に生徒の意見を反映させ、意欲的に取り組ませる。	3.67	3.59	
		2年	中堅学年として行事・学習・部活動などにおいて、意欲的・積極的に活動させる。 集団の規則を守り、自ら考え自主的に行動する能力を身につけさせる。	学校行事などに主体的に取り組ませ、豊かな心と、課題発見・解決能力を育成する。	3.88	3.33	3.75
				オープンキャンパスへの訪問、卒業生や地域の社会人との対話などを通して主体的に進路選択ができるよう支援する。	3.75	3.30	
				球技大会などの学年行事において、生徒に主体的に企画を考えさせ、運営させる。	3.29	3.55	
		3年	最上級生としての自覚と責任を持ち、常にリーダーとして積極的に行動させる。 自立した大人として社会で適応していく能力と姿勢を育成する。	進路だよりの発行と保護者会、面談を通して正確な進路情報を提供する。	3.29	3.52	3.75
				基本的な生活習慣を確立させるための働きかけをおこなう。 ①登校時の指導、挨拶の励行、時間厳守 ②自身の体調や気象状況に合わせ、主体的に判断し服装を選択する。 ③端正な身だしなみ	3.33	3.55	
				規範意識の向上と実践のための働きかけをおこなう。 ①拡大生徒指導部会で問題行動の予兆を把握し、予防のための方針策定 ②情報モラル講演会の実施	3.17	3.55	
		生徒指導部	生徒が自律的な生活態度を身につけるための働きかけを行う。 交通安全や情報モラル等、社会の一員としての責任感を育む取り組みを行う。	自転車の安全運転を励行させるように働きかけをおこなうとともに、育友会と協力して自転車点検を行う。 ①駐輪場割当、鑑札発行、駐輪指導 ②交通安全教室の実施 ③職員による自転車点検 ④登下校指導の割当	3.33	3.67	3.00
				心身共に健康で安全な学校生活を送ることができるように、各部・学年・教科と連携して、保健活動、教育相談の充実に取り組む。	3.00	3.58	
				発達段階に応じて、次の内容で各学年に保健講演会を実施する。 1年生：薬物乱用防止 2年生：性教育 3年生：ストレスマネジメント	3.83	3.67	
3	「人間科学」 「三素（総合的な学習の時間）」を中心としたさらなる特色化	総務部 進路指導部	図書館の環境整備を行い、「人間科学」「三素」での利活用を促進する。	3.25	3.27	3.25	
			HGLCの推進。 人間科学類型を中心に課題研究活動に必要なリテラシーを養成する。	4.00	3.56		
			県立図書館や三田市立図書館などと連携し、利用できる書籍の幅を増やす。 「人間科学類型特別授業」や「HGLC講演会」を実施する。 情報機器を活用し、校外の活動への積極的な参加を推進する。	4.00	3.47		
4	地域に愛され信頼される学校	総務部	各種の学校行事について、連絡・調整と内容の精選を図る。	3.75	3.29	3.75	
			各部、各学年の調整を図り、円滑な教育活動を目指すとともに、育友会・同窓会等とも連携して、保護者や地域に信頼される学校づくりを目指す。	3.50	3.62		
			学校案内を作成し、各所に配布するとともに学校ホームページの充実にも努める。	3.75	3.88		
			学校紹介動画や学校ポスター等も作成し、中学生やその保護者に学校の魅力を伝える。	3.75	3.56		
			現実に即した災害発生時の防災マニュアルを作成し、それにもとづいて防災訓練や防災教育を実施する。	3.50	3.76		
防災教育を充実させ、危機対応能力を高めるとともに、安全で安心できる学校生活の実現を図る。	3.50	3.50	3.50				
5	グローバル社会に通用する能力の育成	総務部	オーストラリアへの長・短期留学生派遣および受け入れに向け、姉妹校との調整を図る。	2.75	3.35	3.25	
			国際理解教育の推進に取組み、国際社会においても活躍できるたくましい生徒の育成を図る。	4.00	3.88		
			国際交流事業の報告集である「HSメイト」を発行し、情報の共有と本校生の国際的視野育成を図る。	3.75	3.65		
6	いじめ対応	全職員	いじめ基本方針を理解し、いじめの未然防止に努めた。	3.26		3.00	
			いじめ対応マニュアルを活用しての、いじめの早期発見・早期対応をこころがけた。	3.26			